

3. フロイトは、係の遊びを観察して、母子関係が象徴化され、反復されていると考えた。このときの遊びは「(①)」の組み合わせでできていた。また、このことを「いざなみ症候群」に当てはめてみると、患者は自己と胎児の関係を、母と自己の関係へと象徴化していかなければならなかったと言える。そのために、いわば「自分自身が自分自身の胎児になって自分自身の産道を通して登ってゆく」という奇妙なありえない経験をしていたと表現できよう。これは三次元世界では実際には起こりえない体験だが、「クラインの戯」や「(②)」をモデルとしてある程度その構造を想像してみることもできる。ラカンの表現（たとえば彼の「シェーマR」）ではこの部分は「(③)」にあたる。また、患者がこの体験をしているときには身体的発作が起きていたが、治療の転回点になるこのような身体的現象を、(④)はKriseと呼んで概念化した。
- ① a 上昇と下降 b 良い対象と悪い対象 c yes-no d fort-da  
 ② a メビウスの帯 b アブラハムの発達図式 c フロイトのリビード d レヴィ＝ストロースの神話構造論  
 ③ a 象徴界 b 想像界 c 現実界 d 父の名  
 ④ a ビンスワンガー b ヴァイツゼッカー c ダングス d ケレーニイ  
 A (①c②c③b④c) B (①d②a③c④b) C (①a②b③d④d) D (①b②d③a④b)  
 E (①d②c③b④a)

4. 次の「」内の夢は、生物の墜落に次いで食物が現れる点で、(①)の(②)に似ている。「子供が道路に出ようとしていたので追いかけていった。手を引っ張ったとたんに溝に落ちて気を失った。あとで、見知らぬ人に、子供は亡くなったことを知らされた。そのあと近くの畑にいた。畑にはさつまいもがたくさんあった。姉がさつまいもを持って帰ろうとしたら、上の姉が、この畑はほかに売ってしまったものだからだめだと言っていた。」
- ① a インドネシア b ロシア c ギリシャ d 日本  
 ② a ハイヌウェレ神話 b オルベウス神話 c 瓜子姫型民話 d 幽霊子育胎民話  
 A (①b②c) B (①b②c) C (①c②b) D (①d②d) E (①a②a)

IV. 1. 精神分析の中で、分析を受けている人はどのような心的作業をし、どのように話すのか、その方法を示す用語を書き(①)、また、その話に対して、分析家の側はどのような仕方で介入するのか、その仕方を示す用語を(②)、それぞれ定められた字数で書きなさい。

V. (ポ一テス点)「べてるの家」編集のビデオに登場した患者さんたちが苦しんでいた症状について、その症状名を、患者さんの語った用語で2つ書きなさい。